

機械科は年末・年始もものづくりに頑張っています！

12月25～27日の3日間、アーク溶接特別教育講習を実施しました。機械科の1，2年生7名が真冬の寒さの中、本校OBの技能マイスターを招き、学科と実技の二つの分野について熱い講義をしていただき

ました。アーク溶接とは約6000℃の高温を雷の原理である放電現象を利用して発生した熱により金属を溶着する技術です。非常に優れた加工技術ですが、この分野で働くためには特別教育を受けることが必要となります。



また、12月27～28日には高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門島根県大会に出場する1年生二人と国家資格である技能検定3級機械加工を受験する生徒が技能マイスターを招き、技能指導を受けました。技能マイスターとは国が認定した高度熟練技能者であり、分野ごとにそれぞれいらっしゃいます。

技能とは人が持つ能力のことで、人から人に直接学ばなければ、伝えることが出来ないのだそうです。その意味は実際に現場に立って体感すると、とてもよく分かります。

機械科では、課題に取り組みながら、技術者として必要な知識と、高い技能を身に付けるために、島根県職業能力開発協会さんや東部高等技術校さん、更には技能マイスターと連携してものづくりを探究している学科です。ただ、漠然とものを作るわけではありません。そのために機械加工、溶接は勿論ですが、鋳造や鍛造、更にはNC工作機械（プログラムの入力により、加工を行うもの）も学びます。そのような学びが次のステップへとつ

ながって行きます。



今年も機械科は躍進していきます。昨日の自分を1mmでも超えるために努力を続けます。これが機械科120年の伝統です。